

令和6年度 第1回 長野県ICT学び推進協議会（オンライン）

1 日 時

令和6年5月14日（火） 13：30～15：00

2 実施方法

Web会議による

3 参加者（青色は欠席）

【信州大学】東原名誉教授、島田教授、佐藤准教授、森下准教授、両川公認心理士  
【豊丘村立豊丘中学校】林校長 【長野市立篠ノ井東中学校】山下校長  
【青木村立青木中学校】箕田校長 【松本市立清水中学校】武井校長  
【駒ヶ根市立東中学校】林教諭 【須坂市立小山小学校】舞澤教諭  
【安曇野市立堀金小学校】織田教諭 【佐久市佐久平浅間小学校】春原教諭  
【長野市教育委員会】佐久間様 【佐久市教育委員会】菊池様、小林様  
【上田市教育委員会】長田様、藪様 【松本市教育委員会】清沢様  
【塩尻市教育委員会】上條様、島津様 【飯田市教育委員会】北澤様、榊原様  
【信濃町教育委員会】外谷場様、北村様 【喬木村教育委員会】木下様、長坂様  
【学びの改革支援課】白井課長、一色係長、五味指導主事、櫻田指導主事、伊藤主事  
【北信教育事務所】北原指導主事 【東信教育事務所】高野指導主事  
【中信教育事務所】吉沢指導主事 【南信教育事務所】白井指導主事  
【総合教育センター】岡宮専門主事、北原専門主事  
【DX推進課】清水課長、檀原主事、早川主事 【教育政策課】倉澤主事  
【心の支援課】渡邊指導主事 【特別支援教育課】井坪指導主事  
【義務教育課】清水総務助成係長 【総務事務課】坪井係長  
【長野県市町村自治振興組合】木我様

## 4 内 容

### (1) 開会あいさつ

#### 【白井課長】

- ・本推進協議会は、令和3年度より学びの改革支援課内に設置された長野県 ICT 教育推進センターを含む長野県の ICT を活用した学びの方向性を検討する役割を担い、本年度で4年目を迎える。
- ・昨年度同様、センター長に信州大学教育学部 次世代型学び研究開発センター長の島田英昭（ひであき）先生を迎え、専門的な知識をもつ有識者の皆様や先進的に取り組む市町村教育委員会担当者の皆様、学校の先生方と ICT 環境の整備や職員研修の充実を目指し、教育委員会全体で ICT 教育の推進に取り組んでいるところ。
- ・有識者の東原先生、佐藤先生には、県内はもとより、全国でも活躍されている大変お忙しい中、お力添え頂いており感謝申し上げます。特に昨年度は、オンラインで授業を配信しながら指導・助言を頂く機会を得まして、大変有意義なものとなった。
- ・また両川先生におかれましては、特別支援教育の現場のニーズに応える指導・助言を頂くなどお力添え頂いている。さらに今年度からは調達の関係で教育学部森下先生にもご助言いただくということで多くの先生方にご協力いただけますこと改めて感謝申し上げます。
- ・本年度は ICT 学び推進協議会を県内全市町村が傍聴可能な形として、またこの協議会の後に開催される GIGA スクール市町村代表者会では、全市町村が議論、情報交換が可能になる、そういった形としている。全市町村参加型の協議会の設置により、端末更新の補助金に対応できるとともに全市町村で連携してギガスクール構想の推進にさらに取り組んでいくことができると考えている。県内全体で ICT 教育に関わる教育水準がさらに向上していくようご意見をいただければ幸い。

### (2) 担当からの説明

#### 【五味指導主事】

##### <令和6年度長野県ICT教育推進センター目標>

- ・今年度の目標は、昨年度から継続して「子供たち全員が、問題発見・解決の過程でクラウドを活用できる」。クラウドを使った同時共同編集を目標にやってきており、問題発見・解決は授業改善が大きく返ってくる部分でかなりレベルの高い目標となっている。授業実践の方も進めながらクラウドを活用していくということで腰を据えて2年目を進めていく。

##### <長野県GIGAスクール会議について>

- ・昨年度は長野県 ICT 学び推進協議会の後に GIGA スクール運営支援センター市町村担当者会を開催していた。
- ・今年度からは全市町村が参加できる長野県 GIGA スクール会議として、第一部を長野県 ICT 学び推進協議会（全市町村が傍聴可能）、第二部を長野県 GIGA スクール市町村代表者会、こちらは全市町村参加で議論情報交換が可能となる立て付けを考えた。これらの会議に共同調達のワーキンググループが紐付き、端末更新に関わる共同調達の補助等が出る形となる。全市町村が参加できる形にすることで、さらに長野県の GIGA スクール推進を進めたい。
- ・文科省の設置要綱ひな形のサンプル 3 で今年度は進めている。来年度は教育長を構成員とする会議体の雛形が出ており、それに向けて今年1年間準備を進める。

- ・本会議の参加にあたって共通のグーグルアカウントの方を作成した。アカウントは naga-giga のあとに市町村市町村コード 6 桁を入力してドメインがつく。また、学校組合は市町村コードではなく komi01 から 05 まで番号を振っているため、こちらを使用して同時共同編集等を行いながら連絡を取りながら進めていければと考えている。他のアカウントも使ってこの会議の方に参加したいという場合は 5 月に市町村に向けた GIGA の調査を行うため、そちらに記入して提出していただくように考えている。

#### 【櫻田指導主事】

##### <端末の共同調達のWGからの報告>

- ・端末更新に向けて共同調達のワーキンググループの方を立ち上げて準備検討を進めている。今年度は 10 自治体が共同調達に参加。希望する OS やクラウド環境の調査・すり合わせを行ってきた。台数や更新希望時期も確認している。共同調達をする上で補助金の補助要件を一緒に確認し合いながら準備を進めているところ。詳しくは後半の全市町村代表者会で扱う予定。
- ・文科省のピッチイベントの方で、基本パッケージが 55,000 円の補助上限の値になるところが出てきているので、共同調達では基本パッケージをもとにいくつか要望を盛り込むイメージで共同の共通の仕様書を作成しているところ。市町村から要望をいただきながら一緒に作成、担当者間でチャットなどを上手く活用しながら連絡を取り合いながら情報共有しながら円滑に進めている。

(森下准教授)

- ・補助要件の中で特にネットワークの環境がなかなか整っていないというような現状が各自治体から話が出てきている。ネットワークの環境整備に関して今後どのように進めていくのかは自治体含めて相談していくところ、全体を通じてこの場でご意見頂き、あるいはご示唆頂きながら補助要件に合うような形でネットワークの整備が進められていくことが大事。

##### <学校のネットワークの改善について>

(櫻田指導主事)

- ・森下先生から助言いただいたように、ネットワークが非常に重要になってくる。ネットワーク改善について文科省から最近通知が出ており、当面の推奨帯域を満たす学校は、約 2 割程度にとどまっているおり、文科省はこの KPI として令和 7 年度にこの帯域を満たす学校が 100 パーセントになることを目指している。長野県は現在 27.1 パーセントにとどまり、このネットワークを良くしていくためにはネットワークアセスメントが必須であろうということでネットワークアセスメントの補助金も追加で募集が来ている (5 月、9 月)。ネットワークアセスメントを実施した場合、1/3 の補助が受けられ、1 校あたりの補助 1000 千/校 (交付される補助金の上限は 333 千/校)。
- ・促進事業補助金を活用してアセスメントを確実に実施するための流れをご提案させていただく。本日の GIGA 会議の中でアセスメントについての説明、ネットワークの整備の重要性をご確認いただき、明日、文部科学省が実施するネットワークスに関する説明会に参加、6 月ごろ長野県で作成予定のアセスメント実施事業者ピッチや事業者一覧をご確認いただき、6、7 月に市町村から業者へ見積徴収、市町村の補正予算に組んでいただいて 9 月の補助金追加募集に申し込みしていただくと今年度中に確実にアセスメントを実施できるように思う。

#### (3) 協議 (司会：島田教授)

## 1) 東原先生の話

### 【東原名誉教授】

- ・各市町村で KPI を満たせるように今年来年再来年とどういうことをしていったらいいかということをも具体的に計画していただきたい。
- ・この会議で県が新しい試みをしており、県から専用のアドレスを発行され、色々な会議への参加や情報収集、時には同時共同編集など、チャットスペースが用意されてそこで長野県の全市町村と、県教委、我々のような立場（有識者）も入る新しい会議のやり方を今からやっっていこうということなので大いに期待し、また活用していただければと思う。
- ・傍聴している市町村の皆さんには、9月までにネットワークのアセスメントの補正予算を取り、国からの補助金を活用していただければと思う。この会でアセスメント業務の応援や契約可能な企業を募り、皆さんに具体的な情報をお示ししてピッチのような形で紹介する場も用意したいと考えているため、それぞれの自治体でどのように対応すべきか迷っている場合には、この会が情報を収集できる場となることを伝えておきたい。

## 2) 喬木村の取り組み紹介

### 【喬木村 長坂様】

#### <ネットワークアセスメント 喬木村の事例>

- ・喬木村でネットワークアセスメントを実施した内容をお伝えする。実際は問題が出てきているということも含めて、実情をお話しする。結論から言うと喬木村のような小さい自治体でも問題や困っていることが起きているため、皆さん早めに取り組んでやっっていかなければいけないとお伝えしたい。アセスメントは2022年の10月から2023年2月にかけて令和4年のGIGAスクール支援センター事業として実施。学習系ネットワークの設置業者ではないため公正な結果を期待できること、学校のネットワークを把握し事前打ち合わせが不要であることを理由に校務ネットワークの設置・保守を行っている地元IT企業と随意契約した。計測測定については、1、2週間以上連続で行われ、学生の学習活動中も含めて長期間計測した。また、利用者の声を把握するためだけでなく、先生たちとのヒアリングも行われ、結果の分析と改善提案も行われた。事業者への依頼内容で報告書の内容は変わってくるが、(喬木村の)報告書には、信号強度（アクセスポイントからの電波はどの程度の強度で到達しているか）やチャンネルのマップ（別々のチャンネル（Wi-Fi）が混在せず流れているか）PHYデータレート（通信速度）の予測値などを実際の校舎図に基づいて可視化していただいた。最終的な出入口にあたるポートの全体の通信量や各教室の通信量の総量もグラフ化して示された。アセスメント結果を総括すると「現在の契約速度がもう少し向上できる可能性がある」との診断結果が出たが、通常利用に問題はないと思われるため様子を見ることにした。しかし、一部の教室では同時共同編集集中に数台の端末だけ速度低下やインターネットに接続できない問題が発生した。全体的に遅いわけではなく、同時共同編集時にのみ問題が生じているため、Wi-Fiの規格が古く通信量に耐えられていない可能性がある。現在、対応策を検討中である。また、文科省からの通知の推奨帯域を現状ではギリギリ満たしていない。せっかくこの金額の契約しているのであれば最大限活用するため、設定の見直しや機器の更新を戦略的に進める必要がある。ネットワークアセスメントを行う自治体については、

現在の利用状況や課題を考慮し、適切なアセスメントのメニューを検討していただきたい。現場のヒアリングや肌感覚を活かしてメニューを検討する必要がある。また、一度アセスメントを行ったからといって安心できるわけではなく、継続的な調査計画や監視体制を確立する必要がある。監視ツールは無料または安価で入手できるものもあるため、規模の大きい自治体では導入を検討した方がよいと思う。設備や費用に見合った速度を目指すために、粘り強く取り組んでいただきたい。

### 3) 意見交換（ブレイクアウトルーム）・全体共有（グループ代表）

<東信・北信グループ>

（五味指導主事）

- ・今回の話を聞いてアセスメントの必要性を感じた自治体のお話や学校現場の先生方からは探究的な学び等でネットワークの方を使う中で、ネットワークが担保されていることの重要性に気付かされたとのこと。またネットワークの調子が悪い時に学校側でも何が良くないのかを調べてみるのが大事ではないかという話をした。学校の先生と市町村の教育委員会で意見交換する機会が少ないため、様々な視点から情報が出てくるところは非常に意味があると感じた。

<中信・南信グループ>

（喬木村 長坂様）

- ・松本市からの情報提供によると、回線の契約業者によって同時セッション数に上限があることがあり、この上限を超えると接続がうまくいなくなることがあるということがわかった。セッション数は1台につき1セッションと考えてしまうかもしれないが、実際には1台ごとにさまざまな動作が行われており、使用しているセッション数も異なるため、しっかり確認しないと正確な評価ができないこともあるので注意が必要との話が前半。後半では、駒ヶ根市の林先生から端末の破損率について、無償で端末の修理を行っているが、修理には3~4ヶ月かかるという状況でみなさんのところはどうかとの話題提供があった。活用率が上がれば破損も増える可能性があるが、私がこの間、講演会で聞いたICT支援員の話で、活用方法を指導することで破損が年間でゼロの学校もあるとの話がありました。破損率を減らす活用方法の指導もしっかりやっていく必要がある。

### （4）充実した利活用に向けた取り組みについて

【佐藤准教授】

- ・たとえネットワークが早くても端末が遅いと子供たちにとってしんどいため、この際に端末がきちんと動いているか、早さは十分か、子どもたちは授業で待たないか等を考慮していくと学習がはかどるというデータも出てきている。端末を活用して個別最適な学びと協働的な学びを進めようとしているが、そもそもどういう自治体が進んでいるのかということをもとに3つにまとめた。まず、標準仕様で取り組んでいる自治体。それから、ここが特に重要ですが、校務から取り組んでいる自治体、そして学習観の転換が必要。学習観の転換には指導主事などの伴走者が必要であり、子どもたちにどう指導していくか先生方に寄り添ってやっていけるかが重要。

GIGA スクール構想は、授業だけではなく最初は先生方が校務で変わっていく必要があると思っている。校務で慣れている自治体と慣れていない自治体では大きな差があり、校務DXを進める

ことが非常に大事。校務支援システムと汎用のクラウドツールを使用しているが、校務支援システムでしかできないことを除いて、多くの業務は汎用のクラウドツールで行うことができる、やっていく必要がある。起案もクラウドで進んでおり、スプレッドシートや Google チャットで行っている自治体もある。教員不足の時代においても、校務 DX によって補っていくことも考えていくとよいのではないかと思う。なぜこれをやるかという、子供も先生も授業も校務も同じ汎用アプリケーションを利用することが最短距離だと思う。別々のアプリケーションを利用することが苦手な先生もいる。そういったことが変わっていくと、先生方の学び方も変えていく。変わっていく必要がある。こちらの資料では、先生の学びと子供の学びは相似することを示しており、先生が聞くだけの研修を受けていると、子どもたちにもずっと聞かせる授業になっていく。アクティブに、個別最適に先生も学んでいく、クラウドを使えば子どもたちもそれができるようになるという考え方。そういった考え方の学校では聞くだけの研修を止めて、3 ヶ月に 1 回の研究授業だけでなく毎日実践を共有するということが常に行われている。これらを踏まえて個別最適な学びに向かっていきたい。しかし、現在の日本は自律学習が苦手であり、PISA2022 では 34 位という低い評価を受けている。また、ICT の活用頻度は依然として低い状態にあり、特に探究や PBL では ICT の使用頻度が低い状況。一部の学校で、生活総合では ICT が邪魔だとして使われていないこともある。探究していくのに ICT や生成 AI がこれから必要になってくるため、この考え方をなんとかしていきたい。最後に、個別最適な学びに関して、先日、富山市の学校でグループ活動の時間がちょうどいいかを聞いたらバラバラだった。こうした課題に取り組むことが、ICT 活用の今のメインストリームと考える。学習観を先生方とどう変えていくかが課題。

#### 【両川公認心理士】

- ・今までの指示通りの読み書きや計算による授業だと頭の脳の一部を使って勉強していたと思うが、これからは主体的で個別最適でそれから協働、会話というふうになると脳の中の活用する、使われる部位や場所やネットワーク、脳の中にもネットワークがあるため、それが多岐にわたって想像がつかないような使い方をしてくる子どもたちも出てくると思う。それに伴い、彼らが勉強する環境、端末やネットワーク、それから取り巻く大人の人たちの考え方、提供していくものもタフになっていかないと追いつかないんじゃないかと感じた。私も一生懸命体力つけていこうかなと、ぜひそういった子供達がどんなことをしてもへこたれないような教育環境をぜひネットワークから作っていただいてもraitたい。

#### 【森下准教授】

- ・私の方からお話できることはネットワークの関係と、最近、諸外国を訪問しているため、子どもたちがどのように学びを深めていけばよいかを考えられるといいかなと思う。昨年度からストックホルムの学校での取り組みや海外の実践を参考に、ICT の活用方法について考察して学生に指導している。今ご覧いただいている写真は、校長先生や子どもたちが C B T を使って評価を受けている場面です。東原先生からもお話がありましたが、こういうように客観的なデータに基づいて教育が語れるようになるといいのかなと思う。そのためにはやはりネットワークが非常に大事になり、子どもたちの様々な取り組みが当たり前のように自然に流れるような形のネットワークの構築や

学習端末が整備できることが大事なのかなと思う。こうした自分の特徴に応じたツールの選択ができることが非常に大事で、子どもたちの中ではスマホを使って授業を受けるようなこともしており、さきほど佐藤先生からもお話がありましたが、学びをいろんな形で進んでいくためには、先生自身ができていかなければいけない。私も先日、とある市町村の研修させていただいたが、やはり学校の先生方がうまくできないと子供たちもできないんだろうなど、先生の力量差を感じた。自分たち自身からどうやって取り組んでいくかを考えていけるといいのかなと思う。そういう観点に立ったときに、今回私は共同調達ワーキングの座長として参加しているが、いろんな条件がある中で、日常的にどのような課題を持っていて、あるいは ICT の特徴をうまく生かして授業をすることができているかをこの機会に振り返ることが重要。各自治体から質問を受けているが、なかなか学校の現状がわからない、どのように共同調達やネットワークの整備を進めていくべきかわからないというお話を聞く。そのままだと結局学校の実情と見合わないような整備、学校現場や子供たちにとって適切とまらない可能性があるため、やはり教育委員会の先生方をはじめ、学校の先生方が日常的に使う中で、子どもたちがどんな課題を感じているのか子供たちが授業の中でどのような良さを見出しているのかを意識してこれから共同調達やネットワークアセスメント、KPI の要件を満たすように取り組んでいただきたい。

#### (5) 連絡

#### (6) 閉会あいさつ

##### 【一色義務教育指導係長】

- ・皆様ありがとうございました。特に東原先生、それから島田先生、佐藤先生、森下先生、両川先生にはそれぞれの立場からそれから市町村が困らないような情報を提供していただいたと思う。ブレイクアウトルームへ入った時に、非常に話が建設的でこういったつながりの中で共同調達をやっていくことはとても大事と思う。学校が見えていない所、それから市町村が見えていない所を共有してやっていかないとなかなか難しいんだなど。ネットワークがなかなか繋がりにくいということやそれから使う上で学習観を変換していかなきゃいけないということがそれぞれ市町村の課題、学校の課題だなというふうに受け止めた。また、そういったところを情報共有しながらこの会を進めていければと思う。今日多くの市町村の皆様にも傍聴していただきましてありがとうございました。

---

### 令和6年度 第1回 長野県GIGAスクール市町村代表者会

#### 1 日時

令和6年5月14日（火） 15：05～15：35

#### 2 実施方法

Web会議による

### 3 参加者（青色は欠席）

長野市教育委員会、松本市教育委員会、上田市教育委員会、岡谷市教育委員会、飯田市教育委員会、諏訪市教育委員会、須坂市教育委員会、小諸市教育委員会、伊那市教育委員会事務局、駒ヶ根市教育委員会、**中野市教育委員会**、**大町市教育委員会**、飯山市教育委員会、茅野市教育委員会、塩尻市教育委員会、佐久市教育委員会、千曲市教育委員会、東御市教育委員会、安曇野市教育委員会、小海町教育委員会、川上村教育委員会、**南牧村教育委員会**、南相木村教育委員会、北相木村教育委員会、佐久穂町教育委員会、軽井沢町教育委員会、**御代田町教育委員会**、立科町教育委員会、青木村教育委員会、**長和町教育委員会**、**下諏訪町教育委員会**、富士見町教育委員会、原村教育委員会、辰野町教育委員会、箕輪町教育委員会、飯島町教育委員会、南箕輪村教育委員会、**中川村教育委員会**、宮田村教育委員会、松川町教育委員会、**高森町教育委員会**、阿南町教育委員会、阿智村教育委員会、**平谷村教育委員会**、根羽村教育委員会、**下條村教育委員会**、売木村教育委員会、**天龍村教育委員会**、泰阜村教育委員会、喬木村教育委員会、豊丘村教育委員会、大鹿村教育委員会、上松町教育委員会、南木曾町教育委員会、**木祖村教育委員会**、王滝村教育委員会、大桑村教育委員会、木曾町教育委員会、麻績村教育委員会、**生坂村教育委員会**、山形村教育委員会、朝日村教育委員会、筑北村教育委員会、池田町教育委員会、松川村教育委員会、白馬村教育委員会、小谷村教育委員会、坂城町教育委員会、小布施町教育委員会、高山村教育委員会、山ノ内町教育委員会、木島平村教育委員会、**野沢温泉村教育委員会**、信濃町教育委員会、小川村教育委員会、飯綱町教育委員会、栄村教育委員会、上田市長和町中学校組合教育委員会、辰野町塩尻市小学校組合、松本市・山形村・朝日村中学校組合、塩尻市辰野町中学校組合、小海町北相木村南相木村中学校組合、信州大学東原名誉教授

### 4 内 容

#### 【櫻田指導主事】

<共同調達に関わる各種計画の策定について>

- ・長野県内の全市町村が参加する会議のため、県内で大事にしたいことや共通認識が必要なところを中心に扱っていかうと思う。現在、共同調達のワーキンググループを立ち上げ、端末の更新に向けて準備を進めている。前半の会議では、ワーキンググループの進捗状況を報告した。端末の更新に国の補助金を利用する場合は、様々な計画書を提出する必要があるため、共同調達の中で、一緒に確認をしながら進めている状況。改めてここで端末更新の補助要件について確認を行うが、補助要件については全部で6点。そのうち1～3点目については、共同調達会議の参加、共同調達による端末の調達、最低スペック基準を満たすことで、基本的にはこの共同調達ワーキンググループへの参加時点で条件を満たす。次に4点目、これが落ちがちなので気をつけていただきたいが、指導者用の端末の整備。年度の5月1日現在の教員の数の指導者用端末を整備するということで、教員の定義は校長副校長と主幹教諭、指導教諭、教諭、助教諭及び講師ということで支援員などを除いて基本的に全員が対象。市町村によって例えば授業を担当する先生しか持ってない可能性が高いためよく確認していただきたい。5点目がウェブフィルタリングということで、児童生徒の端末にフィルタリングを適切にかけているかというところ。これも以前聞いたところによると、半分弱



ぐらいのところはかかってないとのことなので、お気を付けいただきたい。6点目が各種計画の提出。注意事項として、各種計画の策定・公表なので、計画を立てるだけではなくて、それをホームページで公表しましょうということになっている。端末の整備更新計画については、ここから先5年間で何台ずつ更新していくか、どの年度で何台更新するか等の計画。ネットワークの整備計画については、ネットワークのアセスメントについてどのタイミングでどの程度実施するか等の計画。校務DX計画については、校務DX化チェックリストに基づいて自治体として校務DXをどのように進めていくかという計画。最後が利活用に係る計画ということで自治体としてどう推進をしていくか、どこを目指して頑張っていくかみたいなどころの計画活用を中心にした計画ということになる。このあたりを全て策定していかなければいけない。文科省が出している各種ガイドラインや要項要領と計画等の一覧になるのですが、この資料の真ん中あたりに大事なことが記載されており、更新予定年度にかかわらず令和6年度に作成と記載されている。つまり1点目から4点目までの各種計画については、今年度共同調達更新をしなくても、今年度中に策定する必要があるということ。令和6年から10年度まで5年間のどこかではなく、計画に関しては今年中に策定する必要があるので注意してほしい。今年更新がなくても、今年中に策定をするということ。策定に困る市町村も想定されるため、私の方で参考になるようなフォーマット、様式を作成した。例えば端末整備更新の計画を入力するもので留意事項等を周りに書いてあるので、基本的にはこのシートだけ見て作成できるようにしている。次がネットワークの整備計画、DXの計画。ファックス、押印の廃止や不合理な手作業を減らす、クラウドを活用して校務DXする。文科省が押している項目ですのでここについては、全ての市町村で取り組んでほしい三つの項目を共通項目として入れている。下のところには選択項目ということで、校務DX化のチェックリスト34項目をプルダウンにしてあるため、その中から目標を6つ程度選んで、その達成度やパーセンテージをここに入力していただければと思う。最後が利活用に関わる計画。必要のある項目や視点当が示されており、それを項目として立ててあるので、その通りに書いていただければと思う。今のところまでが調達に関わる補助金の要件となる。

(飯田市教育委員会)

- ・策定条件のところ、その校務DX化の例えばハンコをなくすとかファックスなくすとか文科省だとKPIが令和7年で100パーセントとなっているが、どの程度達成するように書けばいいのか。達成目標の範囲はどれくらいを見とくべきか。

(櫻田指導主事)

- ・必ず文科省の目標と一致させるかは自治体の判断になるが、おそらく文科省から令和7年度の100パーセントと言ってるものに関しては、そこでどうして達成していないか言われることは間違いないと思うので、そこも意識して目標を立てていただければと思う。だが、実態も(自治体によって)違うため、必ず一律にこの年度には何パーセント、この年度には何パーセントと決まっているわけではない。各自治体で計画になる

(飯田市教育委員会)

- ・ありがとうございます。

(櫻田指導主事)

- ・今回映しているスライドや先ほど紹介した計画の様式については、議題のレジュメの中に貼っているグーグルの G ドライブのリンクに、今日の会議資料ということで入れているためご活用ください。

#### 【櫻田指導主事】

<ネットワーク整備計画について（アセスメントの実施）>

- ・このネットワークの整備計画も先ほどの補助要件の中の一つになっているが、当面の推奨帯域を満たす学校は 2 割程度しかいないということで、ここが急務となっている。令和 7 年度の文科省の KPI では、この推奨帯域を満たす学校が 100 パーセントになることを目標に掲げられている。推奨帯域は何かというと、（資料はメールで送られてますので確認していただければと思いますが）規模ごとに当面の推奨帯域というものが設定され、学校が大きくなればなるほどそれだけ回線速度も必要だということが示されている。この全国のトータルで見ると 21.6%しかこの推奨帯域を満たしていないということ。人数ごとの資料もありますが、これについてはさらに詳しく違うページに載ってますのでそちらもご確認ください。また、先日送った「学校のネットワーク改善について」メールの中には、学校のネットワーク改善ガイドブックが入っており、例えばこのネットワークアセスメントの調査項目や内容等がわかりやすくまとめて紹介されているため、基礎知識として一通り目を通していただくと。ネットワークの整備をしていく上で、補助金を使ったアセスメントをしていくという場合には申し込みの必要があるが、追加の希望の締め切りが 5 月 20 日と 9 月 3 日となっている。5 月 20 日の申し込み締切ってというのは現実的には厳しいかなと思う。もうすでにネットワークアセスメントをやるつもりで準備をしていて、たまたまそのタイミングでこの追加募集が来た場合は対応できると思うが、これから新たにネットワークアセスメントを行う場合には 5 月 20 日にこの追加希望を出すというのは正直無理だと思われるため、現実的に考えると 9 月のところで追加希望を出すというのがよいかと思う。そこで 9 月で追加希望を出して補助金を活用してアセスメントを実施するとしたらの流れの一例をお見せする。今回の長野県 GIGA スクール会議の中でアセスメントの必要性や概要を理解していただいて、明日、文科省がネットワークに関する説明会を行うため、こちらも是非目を通していただけたらと思っている。また、あくまで予定だが、6 月頃にアセスメント事業者のピッチ、一覧表作成を検討しており、その先で市町村からアセスメント事業者に見積等を依頼し、それをもとに補正予算に計上、補助金の追加募集に申し込みしていただければと思う。

（喬木村教育委員会）

- ・アセスメントに関する補助金は出始めているが、実際問題があった先の改善に対する補助金については何か示されているか？

（櫻田指導主事）

- ・現時点ではっきりしていないが、ネットワークに関しては新たに（問題があった場合の改善を）実施する必要が出てくるはず。
- ・アセスメントを業者に依頼する前の段階で困っているところも場合によってはあると思われるので、国のアドバイザー事業を使う、既に行っている喬木村に相談するのもよいと思う。また、市町村の自治組合に業務委託をすることも選択肢の一つで、特に小さい自治体、町村で共同して委託す

することもできる。県としても情報提供を行い、何していいかわからない状況は避けたいと考える。

**【櫻田指導主事】**

<コンピュータ室の発展的な利用について>

- ・教育の情報化に関する調査を県で取りまとめている中で、非常に気になる項目があり、市町村の教育委員会にも情報共有する必要があると考えている。令和4年12月19日に出された、GIGAスクール構想に基づく一人一台端末環境下でのコンピュータ教室のあり方についてという通知。通知の中身を率直に言うと、皆さんの自治体の学校のコンピュータ室はどうなってますかっていうところ。この前の調査の結果を見ると、約半数はコンピュータ室が無くなっていると回答をしている。前向きに無くしている場合は良いが、後ろ向き（通知を確認せずに）無くしている場合を懸念している。長野県は今のところないが、他の自治体で指摘されてる事例もある。通知には、「高機能化や他の学習空間との有機的な連携・分担を図りながら、個人やグループでの活動が可能な自由度の高い空間とすることが望ましい」、「情報ネットワークの将来の更新、増設等も考慮し、コンピュータ等の情報機器、机、無線LANやコンセント等を利用しやすいよう配置することのできる面積、形状等とすることが重要である」と記載されている。今までのコンピュータ室よりも自由度が高く、発展的な空間にしましょうと、STEAM教育なども注目されており、プログラミングやそこでのものづくりをするみたいなことができる空間にしていきたいと書かれている。間違ってもコンピュータだけ撤去して別の教室に変えちゃうみたいなことはやめましょうという通知になっており、ここを懸念しているため情報提供させていただいた。

**【櫻田指導主事】**

<データ利活用について>

- ・データの利活用について、昨年にとある議会で指摘されたことから、子供の閲覧履歴や学習成果物のデータ利活用が問題になってる。今後もこの教育データの利活用については、市町村単位でよく考えて準備をしていかなきゃいけない部分。その説明会がこの会議の裏でやっているため、アーカイブを後日確認していただきたい。通知メールの中に、6、7月以降に全国の調査を行うことも記載されているため、よく確認をお願いします。

(両川公認心理士)

- ・今の二点について、何か使える助成金みたいなものはあるか？

(櫻田指導主事)

- ・おそらく今のところはないと思われる。例えばコンピュータ室をさらに発展させるみたいな話か？

(両川公認心理士)

- ・もう終わってしまったが、パナソニックでそういったことの募集があった。そのような情報があると具体的に動きやすいかなと思う。

(櫻田指導主事)

- ・情報があればまた紹介をしていきたいが、そこまでお金をかけなくても工夫してそういう空間を作っているところもある。信濃小中学校では、もともとパソコン室だったところをメーカースペース

という名前をつけて、グループワークがしやすい環境、みんなでクリエイティブなことがしやすい空間ということに置き換えてやっている。

(両川公認心理士)

- ・広い机があったり、パソコン教室自体広いので、確かにディスカッションしたりするのに良い。

(櫻田指導主事)

- ・昨年まで私がいた飯田市では、予算的に限られていたため、少しだけ工夫してスペースを作りました。机の形を変えて真ん中にテーブルトップを常設し、プロジェクターも常設するなどの工夫を行い、例えば、部活や生徒会などの活動に自由に使えるようにした。お金をかけずにできる工夫なので、参考にしていただければ。資料が見つかったら共有する。

(両川公認心理士)

I C T 支援員や子どもたちと相談しても楽しそうですね。ありがとうございます。

(櫻田指導主事)

- ・こういう通知も出て、それをむしろプラスに考えてやってる学校も中にはあるが、調査だけ見ると半分ぐらいはもうコンピュータ室が無くなっている学校があり、危機感と共に情報共有をさせていただいた。管轄する学校がどうなっているか、もしまだ把握されていなかったら、一度調べていただきたい。

(坂城町教育委員会)

- ・パソコン教室の関係で、先ほどお話あった集会で自由に使えるような空間を作りたいというようなことで今整備を考えているが、パソコン教室にサーバーが置いてあり、GIGA のネットワーク整備で整備したネットワークが硬いケーブルでもう固定されてもう動かせないってというような状態になっている。業者に相談すると、国庫が入ってるため、動かすのに国への変更申請が必要という話があったが、そういう理解でよろしいか？

(櫻田指導主事)

- ・そこまでは把握をできていなかった。情報があれば共有する。
- ・今回初めて全ての自治体が参加する会議となった。共有したい情報は出させていただいて、スライド等もクラウド上に保存しているので確認いただきたい。この GIGA 会議で活用するグーグルアカウントを県の方で発行して、一緒に共同編集やチャットによる連絡ができる環境を整えたのでそちらの登録をお願いします。また何かあれば個別に連絡をいただければ。